

春の予防を開始しましょう！！

通年予防される方もいらっしゃいます。予防は4月から12月まで必要です。

予防の意味

4月から12月が予防の季節です。

予防の種類には、大きく2つあります。

1、感染症の予防

毎年のワクチン接種、フィラリア・ノミ・ダニなどの寄生虫の予防が必要です。

2、成人病の予防

人の成人病と同じように猫ちゃんも老猫になるにつれてなりやすい病気があります。

腎臓病、心臓病、肝臓病、糖尿病、甲状腺機能亢進症などの予防が重要です。

(特に腎臓病、甲状腺機能亢進症は、猫にとっても多い病気です。)

定期的な健康診断、食事の見直し、サプリメントなどの投薬などが必要な場合がございます。また、去勢・避妊手術も成人病の予防方法の一つです。

これらの予防を疎かにするとその子の寿命や健康寿命が短くなります。

後悔をしない為に予防はしっかりと行って頂きたいと思えます。

当院では、予防は飼い主さんの義務だと考えております。

0. 予防の手順

1. 身体状態の確認

↓ 問診、視診、触診、聴診等により健康状態のチェック

2. 血液検査

↓ 健康診断(成人病の早期発見のため)

3. 予防薬のお渡し

☆血液検査は外注検査です。検査結果報告は1～2週間後となります。(郵送)

☆くわしい成人病検査は追加検査となります。(エコー、レントゲンなど)

1. 予防医療① フィラリアの予防

室内飼育の猫も感染します。

猫にもフィラリアの予防が必要です！！

フィラリア症とは、蚊から虫(フィラリア)が感染し心臓に寄生することを言います。

予防しないと多臓器機能不全、もしくは死亡する怖い感染症です。

犬においては一般的な寄生虫性感染症ですが、猫の場合も寄生します。猫に寄生した場合は、フィラリア虫体に対する激しいアレルギー反応による突然死も知られています。

また製薬会社は、11%の猫がフィラリア感染症であると報告しています。更に、日本獣医師会雑誌において若齢猫(推定年齢8か月)がフィラリア寄生によるHARD(犬糸状虫随伴呼吸器疾患)を発症し、死亡したと報告をしております。この論文では、超音波検査・血液検査・MRI等の検査をしても生前での診断が出来ず、死後に病理解剖検査において死因がフィラリアであると確定できています。現在、HARDの治療は確立されておらず、対処療法のみです。犬に比べ感染する率は低いかもしれませんが、罹った時の死のリスクはとて

も高いです。論文でも述べられている様に予防をすることがこの病気にかからない唯一で一番の方法です。このことから近年では猫のフィラリア予防も絶対必要であると考えられます。ありがたいことに当院でも猫のフィラリア予防が増えています。

【予防期間】

4月初旬から11月下旬・12月初旬まで

蚊の活動期間は、温暖化の影響で延びています。

中には冬の間も通年予防される方も増えてきています。

【予防薬】

塗り薬；首筋に塗る薬です。月に1回塗ります。ノミ・ダニも同時に予防します。

2. 予防医療② ノミ・ダニ予防

ノミ・ダニは、草むら・公園・河川敷・山だけでなくご自宅の庭でも感染します。

※野良猫ちゃんが遊びに来る場合、室内飼育で接触がなくとも感染するケースが多いです。(ヒトが運ぶ可能性もあります。)

ノミは、皮フ炎・瓜実条虫症・貧血・猫ひっかき病(ヒト)などの原因です。

ダニは、皮膚病・日本紅斑熱・ヘモバルトネラ・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)などの原因です。

☆重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について

ヒトがSFTSウイルスに感染すると6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)が多く症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血等の出血症状などを起こします。

現在 三重県におけるヒトの感染例が12症例報告されています。(国立感染症研究所報告 2020年12月30日報告)更に猫の感染数は全国で120例報告されています。

猫からヒトへの感染の可能性も報告されています。(イヌの症例を調べると飼い主もSFTSに感染していることがわかりました。咬傷はないのでおそらく唾液、体液、尿、便などとの接触によると思われる)。今現在、このウイルスに対するワクチンも確立された治療法も存在していません。そして三重県はマダニの生息数が多い県です！従って、犬の予防が犬やヒトの身を守る一番の方法だと言われています。

わんちゃんを予防する事は、“飼い主さんを守る！”意味があるのです。



犬猫からヒトへの感染の事例：

【予防期間】

4月初旬から11月下旬・12月初旬まで(外に出る猫ちゃんは年中必要です。)

ノミ・ダニの活動期間は、温暖化の影響で延びています。

中には冬の間も通年予防される方も増えてきています。

(野良猫ちゃんは冬にもノミが寄生しています。)

【予防薬】

塗り薬；首筋に塗る薬です。月に1回塗ります。フィラリアも同時に予防します。

3. 健康診断の意義

自分の猫ちゃんが本当に健康な状態であるか？または未病の状態であるか？

外見だけでは分かりません。実際、飼い主さんは健康であるか否かを食欲だけで判断している場合が多く見受けられます。食欲が無くなったときは、病気がかなり進行した状態

です。この病態からの回復には時間がかかります。このような状況を回避する為に定期的な健康診断は必要不可欠です。定期的検診より、健康である事を確認するだけでなく、隠れた病気や未病の状態を把握し、早期に介入治療をする事で健康寿命を延ばします。

うちの猫のしじみちゃんは、4歳の時に腎不全を発症しました。半年の闘病後、5歳になったばかりで亡くなりました。諸事情により毎年行っていた定期健診が出来ず、病気の発見が遅れてしまいました。今でも、私は非常に後悔しております。

また若くても心筋症で突然死する場合があります。6歳のマンチカンと7歳のスコティッシュフォールドが心筋症のため亡くなりました。2頭とも一見元気だったそうです。くわしい検査で確定診断と治療を早期に開始していたらこのような事にはならなかったと思います。飼い主さんも健康診断の必要性を強く実感しておりました。

成人病を健康診断にて早期に発見し、早期医療を行えば、健康寿命の延長が出来ます。

健康寿命を延ばすには、

- 1：定期的な健康診断（健康な場合は年1回）
- 2：病気の早期発見と早期治療介入
- 3：予防の充実

この春にフィラリア・ノミ・ダニ予防が開始されます。その際はぜひ健康診断も行ってください。健康診断は、身体検査、血液検査を基本としております。更に追加検査が必要な場合は獣医師がその都度判断しお伝えいたします。

猫にオススメの検査は

- 1：腎機能検査
- 2：心臓の検査
- 3：甲状腺機能（ホルモン）検査（シニア期）

尚、健康診断は秋にも行っております。この春に機会を逃された方は秋にお願いいたします。

4. トリミングについて

当院で現在猫ちゃんのメディカルトリミングを行っております。治療の一環としてトリミング（薬浴）を行っております。ひどく暴れたり怒ったりする場合は途中で中断する場合がございます。

トリミングの際、事前に健康状態及び皮膚状態を把握し、その子の体調・皮膚の状態に合ったトリミングを行います。獣医師や看護師による健康チェックがあるため病気の早期発見につながります。病気の早期発見に努め、早期治療を行い、健康寿命を延ばします。

こんな子におすすめ

- 皮膚の状態が悪い子
- 高年齢や持病がある子
- 嫌がるため複数人のスタッフを必要とする子
- 抜け毛がひどい、毛玉を吐く子
- 家族がアレルギーのためキレイに保ちたい
- 一般的トリミングもご利用頂けます。

（なお、現在全身カットは行っておりません。）

シャンプー・コンディショナーは、皮膚の状態に適合したものを使用します。

5. お知らせ

詳しくは、当院までお気軽にご相談ください

**予防薬のまとめ買いは割引き・特典があります！
予防のため毎月の来院される場合は健康チェック！**

この機会に LINE をぜひご登録ください。

お得なお知らせなどを配信いたします。（配信専用のためやりとりはできません。）

